

草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト活動報告

部会・PJ名	新型コロナウイルス対策プロジェクト会議	報告者	涌井
部会長	涌井		
副部会長	—		
参加機関 ・ 委員	相談支援事業所「歩歩」：河地氏 むつみ園：植田氏 さぼ～と楽：井上氏 草津保健所：小川氏・西川氏 草津市障害福祉課：國松氏 草津市発達支援センター：倉田氏 りらく：相馬氏 基幹コーディネーター：寺嶋氏		
事務局	心身連：涌井氏、小枝氏、藤澤氏		
活 動 報 告			
今年度のねらい	各機関でのコロナ対応してきた情報を集約し、 在宅生活困難障害者等支援事業の在り方を考える。		
回数	開催日時	概 要	参加数
		(設置の目的) 新型コロナウイルス等の感染症対応について、草津市に居住する障害者及び障害児が家族等の支援により対応が困難な場合について、全体的な支援を行うための仕組みづくりを整えるため、草津市障害児(者)自立支援協議会が各支援機関と連携を図り速やかで必要な対応策の検討の場を設置する。 (プロジェクトで検討する内容) 新型コロナウイルス感染症等の対応に関する事(家族等関係者の支援が受けられない障害児者への支援者の確保・人材登録方法など)、その他必要な事項	
第 1 回	令和 3 年 12 月 22 日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分	【会 場】 草津市立障害者福祉センター 【内 容】 ●コロナワクチン 3 回目の要望書作成について ・前回の要望書を口頭にて紹介。 ・事前にアンケートをしていたが各委員より特に具体的な意見はなかった。 ・自立支援協議会の中で、訪問系の事業所従事者にも優先的に受けさせてほしいという意見が出ていたので、そこは盛り込む。 (意見) ・医療的ケアの必要な障害児と同居している家族も優先接種の対象にしてもらえないか？ ・マスクのできない利用者がいる施設の職員も早く打ちたいという希望はある。 ・現状では、医療従事者から優先的という流れだが、保健所として把握している限り、それほど進んでいないという認識。 ・訪問系や居宅の事業所もそうだが、放デイにおいても、学校が短縮授業になったりすると受け皿の機能としてリスクは高まるので、そこも考慮してほしい。	12 名

●施設連協定例会議（新型コロナウイルスの勉強会）の報告

- ・開催のきっかけとしては、事業所での対応で困った事例があり、濃厚接触者の定義であったり、マスクの種類や食堂の場所など、具体的に保健所に質問を聞いてみたかったというもの。

(保健所からの補足説明)

- ・利用者がマスクをできなくても支援者がアイガード等をしていれば濃厚接触者になることを回避できる。
- ・そもそも、「接触者」という定義はなく、あるのは濃厚接触者で、15分以上マスクなしで、1メートル以内での接触。具体的には、食事の場面であったり、喫煙場所、あとは送迎で10～15分一緒に同乗しているなど。ただ、あくまで基準であり、先ほどのアイガードやシールドも、20～30分を超えて接触するような場合は、濃厚と判断されることもある。
- ・入浴の場面は、高確率で感染する事例があったのでリスクは高いといえる。なので、濃厚と特定されたら清拭に切り替えるなどの対策が望ましい(+できれば決まったヘルパーで)。

●在宅生活困難障害者等支援事業について

▷草津市の状況

- ・自立支援協として冊子とフローチャートを作った。
- ・協議会の中で検討した事例では、8事業所のヘルパー事業所が関わっていた利用者が濃厚接触者になった。あるヘルパーは家には帰らずホテルに宿泊して対応した。その際の費用は県の事業で賄われた。
- ・宿泊施設の現状としては、市から声をかけてはいるが、常に空けてもらっているわけではない。宿泊者が濃厚接触者に格上げされた場合にも前回のように利用できるかは難しい感触。
- ・濃厚接触や陽性が特定された場合、本人の了承があれば、保健所と情報のやり取りは可能。

▷他圏域の状況（大津市など）

- ・本人の同意があれば、やまびこ支援センターや共生シンフォニーの職員が付き添いしている。
- ・相談支援がセルフの場合について、大津の自立支援協に聞いたが、曖昧な返事だった。
- ・支援者は、事業所経由で事前登録してもらおう。直接支援以外の支援も内容に含んでスタッフを募集。支援チームは3人以上。支援者の調整はやまびこ支援センターと大津市が共同で。

※参考として、湖東地域では、パソコンやスマホから登録スタッフの応募もできる。(49歳以下、基礎疾患のない健康な方という条件)

▷他府県の状況（千葉市、大阪府堺市など）

- ・千葉市：支援金の支給があり、固定費として15万円+1回9千円(1日3回まで)あと、相談支援員にも計画作成時に1件2万円がつく。
- ・大阪府堺市：継続支援事業として1年くらい前から体制作りをしている。取り組んでいく中での課題も出てきたとのことなので、今後、会議へ参画してもらったりして意見交換も可能。

(意見交換)

- ・施設の意見を聞いていると、自分のところの利用者であれば…という気持ちはあるが、支援者登録に向けて協力というのはなかなかできない現

		<p>状がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かなり以前に県が各事業所にアンケート調査をしたことがあったが、実際にはほとんど成り手がない状態だったと把握している。 ・重心の方や行動障害の方など、障害特性によっては怪我の恐れもあり、そういう面でも普段関わりのない場合は協力しにくいということはある。 ・そもそも通院介助や在宅のサービスで従来のサービス自体が回っていない中での厳しさもある。 ・実際の対応ケースとして、ガウン等を着用したが、その後始末で困った。 ⇒基本的には一般ごみとして出してOK（2重にして3日間は放置）。 ・県や市からコロナ関連でいろんなメール情報が来るが、見きれていないのと、もう少しわかりやすい書面で、簡単にファイルにはさみこめるようなものがあれば…。⇒国からもリーフレットが出ているし、12月からは保健所でもホームページ上にさっきのゴミの出し方など、必要な情報を載せるようにしている。 ・人の事を考えるのであれば、手当の事も考えておかないと現実的でないし、こういう事例のこういう場合にはこの金額で…というような目安を明確にしてほしい。 	
<p>●今後の予定</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の事前登録に向けて、調査になるのか、いきなりの依頼になるのかわからないが、事業所向けに案内を出したい。その際、どのくらいの報酬があるのかをインセンティブとして明確にしておいた方がいいと思うが、市の想定としては、通常の支給+県の事業費ということになるのかなという見解。 ・その他、有効な情報や資料を収集していく。 	
<p>●総括</p>		<p>第1回会議を受けて2月に第2回の会議を実施する予定であったが、1月～3月にかけての第6波の新型コロナウイルス蔓延の影響で開催できなかった。4年度のプロジェクトは各機関でのコロナ対応してきた情報も集約をしていきながら進めていきたい。</p>	